

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第1回）
開催日時	平成29年10月26日（木）午後2時30分から午後4時38分
開催場所	谷戸小学校 ランチルーム
出席者	（委員）松平会長、中村副会長・加登谷委員・小林委員・奥田委員・伊藤委員・横張委員・押見委員・鈴木委員・金澤委員・緒方委員・金木委員・清水委員・皆川委員・新出委員 （欠席）福田委員 （事務局）木村教育長・等々力学校運営課長・近藤・石部・越川
議題等	<議題> 1 会長及び副会長の互選等について 2 学校給食について 3 その他
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育長より委嘱状及び任命書交付 ・教育長挨拶 ・委員自己紹介 ・事務局自己紹介 <p style="text-align: center;">出席委員15名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認</p> <p>議題1 会長及び副会長の選出等について</p> <p>(1) 会長及び副会長選出 西東京市立学校給食運営審議会条例第5条第2項に基づき、委員より会長及び副会長を選出 会長については、仮座長より学識経験者の松平委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。 副会長については、会長より学校長代表の中村委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。</p> <p>(2) 西東京市立学校給食運営審議会会議録について 西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則第4条及び西東京市市民参加条例施行規則第4条に基づき、会議録の作成、会議録の作成方法について確認。 出席委員全員の同意により、発言者の発言内容ごとの要点記録とすることとした。</p> <p>(3) 西東京市立学校給食運営審議会の傍聴について 西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領第2の規定により、会議会場の広さ等を勘案し、出席委員全員の同意により傍聴人の定員を5名と決定した。</p> <p>(4) 西東京市の学校給食の概要</p>	

事務局より、学校給食についての概要について説明を行った。

議題2 学校給食について

- 会長 各委員の学校給食に対する意見や要望などを確認しておきたい。
- 委員 小学校の給食試食会や、学校運営協議会で給食の試食をした。味やバランスが考えられていて、調理員が朝早くから作っているのがよくわかる。思いが伝わるような給食を毎日食べられるのは良いことだと思っている。

気がかりなのは、2011年の東日本大震災に伴う原発事故後の対応だ。しばらくは市で放射能測定をしていたようだが、今年度からなくなったことを市のホームページで確認した。放射能については、最近はこの地域には影響がないと考えられているかもしれないが、私は、実際には影響の有無はわからないのが本当のところだと思っている。毎日食べるものの安全を考えると、独自の検査について検討してほしい。検出されやすい食材を中心に検査するとか、量を多く食べる主食を検査するなど、メリハリのある検査をすれば、さらに安心安全で、ほかの市にも自慢できる給食になると思う。
- 委員 子どもが食物アレルギーを有するため、詳細な献立表をもらっているが、汁物の鰹節や煮干、ラーメンの豚骨などまで、食材にこだわっていることがわかる。それが子どもにも伝わるのか、子どもが家庭で料理をほめるときには、「給食みたいにできたね」ということもある。

除去食の運用ルールについて、事故を防ぐため、除去食が提供される日は、除去食以外のメニューも全ておかわり禁止となっている。本人も納得し、最初に多く盛り付ける等の対応をしている。しかし、先日、白玉が出た際、他の児童は3つ盛り付けたが、自分だけ2つになっていたことに気づき、担任や養護教諭に訳を話しても対応してもらえず悲しい思いをしたそうだ。事故を防ぐ配慮はありがたいが、もう少し緩やかにしてほしい。

中学校は除去食の提供を行わないとあるが、アレルギーを持っている子は社会でも苦労しているので、中学校でも他の生徒と一緒に除去食を食べられたらありがたいと感じる家族が多いと思う。
- 委員 献立表を見ると、聞いたことのないメニューや魚のメニューが多く、メニューが豊富だと感じる。私は給食を食べた経験がないが、友人の話を知ると、今の子どもたちは恵まれていると思う。息子が小学校に入った頃、イチゴが食べられなかったが、学校で提供された際、帰宅後「学校のイチゴはおいしいよ」と言っていた。以後、給食で出るイチゴは食べられるようになった。成長し、学校のイチゴも売っているものも同じだということに気づき、イチゴが好きだったことに気づいた。子どもの心にとって給食は大事なところを担っていると思う。今は、給食が残ると全部食べているそうだが、第1歩は美味しいイチゴだったので、給食は心の発達にも大事なものだと感じている。
- 委員 小学校のときは、子どもたちのそれぞれの通帳から給食費を引き落としていた。それを見せて、お金を引き落とされているのだからちゃんと食べなさいと教えていた。好き嫌いの多い息子も給食はしっかり食べて帰ってくる。ひばり中の移転の話を知り、自校式になるなら、親校の行事の都合で給食提供がない日もなくなるだろうから、ひばり中に通わせたいと思った。
- 委員 子どもは好き嫌いが多く、嫌なものは食べずに大きくなってきた。学校給食は、みんなと食べる、先生と食べる、お話ししながら食べるということで、好き嫌いをしていない場合ではなく、何でも楽しく食べているようだ。中学校の給食を試食するチャンスがあり、二重食缶なども見て、一つ一つの学校のことをしっかり考えてもらっているとわかり、嬉しかった。問題としては、親子給食の組み合わせについて、上向台小と田無第一中の食数が1400を超えているのが、多過ぎると感じた。ここを少し

ずつ改善していけたらいいと思う。

- 委員 今日会議に出席するに際して、我が家の中学生の子どもに意見を聞いたところ「きのこが毎日出る、お箸が短い、給食が残る、カレーやわかめの味付けのときは残らない、食べる時間が短い、給食回数が少ないが今は改善した、牛乳が3～4本残る、フルーツ系が減った、とうもろこしが食べづらい、麺類の汁を多くしてほしい」という意見が上がった。献立を見ていると世界各国のメニューがあり、今の子どもたちが世界に羽ばたくため、食事からも指導していることがわかり、色々なことを考えて作られていることに感謝している。
- 委員 給食を学期毎に申し込むが、弁当を選択する家庭が増えていると聞いている。学校・学期によってばらつきがあるだろうが、中学校でどのくらい給食を選択している生徒がいるか疑問。弁当を選択している生徒も給食当番を担うということになっており、給食を給仕してから弁当を食べることに疑問を感じる。
- 委員 中学校の給食試食会や、小学校の給食がなく中学校にだけ給食を提供する日に、中学校の配膳方法や生徒の反応を知るため、中学校に足を運んでいる。親校出身の生徒と親校以外の小学校出身の生徒との温度差を解消していきたい。
ここ最近のランチボックス式給食についての報道の影響もあると思うが、米飯に未熟米が入ったことに対する反応を見て、知らないところから来る給食への警戒心が強くなっていると感じた。そういった警戒心は、こちらから発信して、解いていかなければならないと感じている。
- 委員 今年度から親子給食実施校に赴任し、顔も名前もわからない生徒に給食を提供している状況のため、中学校栄養士と情報交換しながら献立を作成している。量や献立の組み合わせなど、顔が見えない人に食事を提供するという事は悩むことも多い。近いうちに様子を見に行きたいと思っている。
- 委員 本日、親子給食が始まるまでの経緯を聞き、色々と考えられていることに感謝することになった。食缶等、細かいところに配慮していることがわかったので、授業等、機会があったら生徒にも話したい。
- 委員 各学校に配置された栄養士や調理員が、一つの食材についてまでも、料理によって切り方や食感を変えるなど、色々なことを考えて作っていると感じる。調理員は、児童の準備が遅れても待っていてくれており、絶対にワゴンを手で渡すなど、児童の安全を常に考えている。アレルギー対応については、教職員は毎朝職員室で確認し、教室でも確認し、必要に応じ保護者と面談も行うなど、色々なことが考えられている対応だと感じる。
児童には、食材を作った人、配達した人など色々な思いを受け止めて感謝して食べて欲しいと思っている。生きている命をいただいていることを話し、食の細かい児童でも少しずつ食べられるようにしている。見えないところで努力している人のことを伝えながら、楽しく食べられるように努力していきたい。
- 委員 高等学校では、給食を提供している学校は少ないため、中学校の給食は、生徒の卒業後、自分たちで何を食べていくか、というキャリア教育の一環であることを考えながら指導を行っている。
自身のことにはなるが、食物アレルギー対応については、昭和病院が主催するアナフィラキシーショック時の対応を学ぶ、コードブルー研修を受けて認定証を持ち、万が一に備えすぐに対応できるようにしている。
給食とは文化であり、重要なことだと考えている。学校としても、給食の時間がより良い時間になるよう努力していきたい。
- 委員 食と健康のデータを見ている中で、若い世代にはメタボなどとは違った健康上の課題が危惧されている。若い世代が、小中学生の時代に、きちんとした物を食べられる知識を身につけるといことが給食の役割として期待されている。
放射能、アレルギーの問題と様々な要望があるなかで、大きな課題として色々な面

から考え、情報提供も必要だと思っている。

給食の喫食時間や、親子方式と自校式で教育効果がどう違うのかという検討が今期以降に残された課題である。学術的な立場で、課題や情報提供のあり方、その課題の解決に向けた調査など、給食の質の向上のために関わりたい。

○副会長 本日の事務局からの説明に、中学校の給食の検証をしてきたということがあったが、中学生を対象として実施したアンケートについて、前回実施してから3年が経過しているので、再調査を実施してはいかがかと思った。今夏に提出した答申の中で、ひばりが丘中学校の建替えに伴い、中学校でも自校式の給食がスタートすることになったので、自校式と親子方式の比較検証をしたいということを記載している。中学生の声や実態を把握した上で審議に生かしていきたいと考えるがいかがか。

○会長 一人ひとりの給食に対する思いが述べられたと思う。事務局は参考にしてほしい。

最後に発言のあったアンケートについて、実施は可能か。

○事務局 アンケートの実施に向け、調整を開始したい。実施が決まれば、データはこの会議で活用していきたい。

議題3 その他

○会長 その他に意見はあるか。

次回の予定を報告して欲しい。

○事務局 次回は、1月に親子給食の試食を計画したい。また、2月にも開催を予定している。

閉会

○会長 本日の会議を散会する。